

演出の記録「巫女舞れいでいず」2025地区大会より <前半部分>

2025年9月23日 久保山ワタル

演劇の面白さは「演出を発見すること」にある。

・漫才

最初に「メタ」ネタを入れる。最少人数で出ていることを嘆きつつ、さりげなく劇の主題である「自分を推すこと」を入れてある。深い思想があるから、「不要」という人は出てこなかった。

漫才は、プロの漫才師の動画を参考にした。例えば「三方に礼」を徹底すると、お客さんがきちんと拍手してくれる。拍手すると親しみを持ってくれる。

また「隅っこの校舎の4階」のあたりは、動作をきちんと入れて退屈しないようにした。

・舞台セット

随所に工夫がある。下手からコンロ、流し台、冷蔵庫、ハンガーと服、棚、AIスピーカー、ポスター、ベッドの下、右側の目隠し代わりにタオル掛けとプロジェクターとスクリーン。スクリーンには基本ホリの色と同じ色を映す。さらにパンチを正方形に貼って、巫女舞の舞台(神楽殿)を模した。

・ワインをきちんと見せること →

ワインが伏線になるので、きちんとお客さんに見せたほうが良い。

・お客さんの方を向いてしゃべる

結局演劇はお客さんに伝わらないと意味がない。だから、決めるシーンは堂々と前を向いてしゃべる。お客さんに自分たちの演技を見て楽しんでもらおうという姿勢が、最終的にお客さんの心をつかむ。

・きちんと聞こえることとテンポのバランス

きちんと聞こえて、テンポが良いのが望ましい。

・「AI 作ったり…」のところ

3つ言葉を重ねるセリフの言い方を工夫。動作ももう少し工夫か。うまく言えば、手の大きな動作はつけなくてもよい。

・「少しおしゃべりしない」からの平山の演技

テンポを意識してか、あまり「心の動き」が感じられない演技になっている。少し考えて言葉を紡ぐところ、適切な間と宙を見る目線の演技を入れるとよいと思う。



右の写真の時は違和感がないが、近づいていくときに猫背を感じる。もう少し距離を取った方が、さらに背筋ピンの方が二木らしいな、と思う。



・時計を見る演技

二人のタイミングがばっちり決まってよい。お客さんは一瞬ハッとしているはず。二木が背をそらすのも、目線が変わってよい。



・「私のお父さん単身赴任してた…」の前の平山の演技

ここで話が急展開するので難しいと思うが、「幼馴染だから、誰にも言っていないけど、言ってみた感」の演技がほしい。中学に進学してからのことは由比は知らないだろうから、言ってみた、という感じか。言った内容は、それは汐見が大学に合格してから今まで、「ここ(大阪大学工学部)」でいいの、か、と思っている違和感と絡んでいるっていう感じ。



・「スニッカーズ」の前の二木の演技

少し貯めがない。あと、相手の前に指を突き付けるが、指が顔に近すぎる感じがする。ドキッとするので、もう少し手をまげて指をさす感じか。



・石見神楽の映像の下の子線



これはないほうが良いので、舞台監督さんがきちんとパソコン操作してほしい。照明はこの部分きれいに決まっていればよい。

[後半]

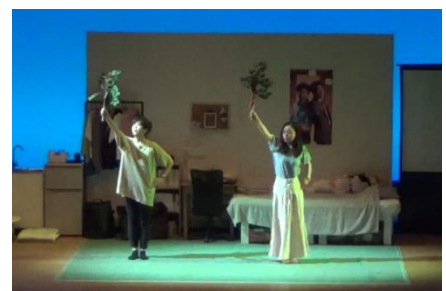
・巫女舞の照明

かなり照明さんと動画を見て話したが、以下のようにすることにした。県大会の会場でどうなるかわからないが。

照明の変化の始まりを最初の礼で頭を下げ切ったあたりからゆっくり入れる。

その照明は緑と青の斜めサスと明るめのSSで作り、汐見が踊りを思い出していく過程をしっかりと見せる。

間奏の部分からは、赤やオレンジなどを入れて、音楽に合わせて変化させていく。



踊りが終わってからは夕焼けの地明かりにゆっくり戻す。

・ 宅配のシーン

県大会の舞台では、視覚的に邪魔になるので、インターホンはつけないことにした。

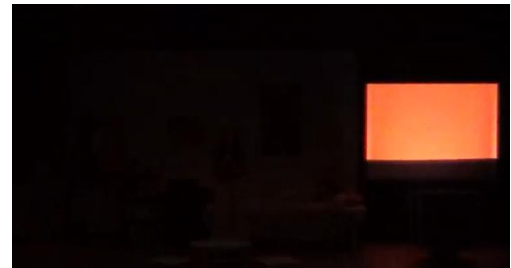
ただし、インターホンを押す位置は、二木と宅配人で一致させた方が良いので、扉枠に黒マジックで目立たない線を入れて、そこから上手15cmのところを押す、とか決めておくともよいかも。宅配人の登場が早すぎないようにしっかり調節。宅配人の受けわたしのあたり、前明かりが欲しい。

・ なんてこった、パナコッタのあたりの照明

全体が暗くて気になる。特に台所から扉のあたり、普通のように前明かり当てるとよい。

・ 10秒の時間経過のところの照明

全部消して真っ暗にするか、ホリとプロジェクターだけは夕焼け残すか。照明操作的には全部消した方がよい。それならプロジェクターの方は消すべき。



・ 二木が扉の前に立った時の照明

暗すぎるので必ず入れるようにしてください。

・ 二木が扉の前に行くところの照明

扉の前に行ってからサスを入れること。サスを入れるのを焦らない。



・ 汐見が入室してからのプロジェクターの色

きちんとホリに合わせておれんじ色を入れる。

本番までホリのフェーダーがいくつかわからないので、きちんとプロジェクターに照明が色を合わせる。小ホールはローホリしかないので注意。

・ キーワードの強調

三重高校演劇部ではキーワードの強調という演出をすることが多い。このシーンでいうなら、二木の「努力してきたんやろ」の「努力」。これは原さんに言っているんやなく、子供のころから何事にも



頑張ってきた汐見に対して励ますセリフ。だから汐見を象徴する言葉「努力」を強く言う。役者で一番難しいのは「語頭」。これをきちんと強く言えるのが、よい役者である。

・照明急変に注意

まず話が一段落(食べよお寿司、せっかく買ってきたんやから、汐見がそのセリフを受け取るまで)は、照明変えてはいけない。帰るときもゆっくり変える。プロジェクターで30秒で変えるなら、照明も30秒かけてかえる。まるで汐見の心情が、二木の後姿を見て、少しずつ変わっていくように。

・正面をしっかり使う

「あ、こういうの糊突っ込みっていうのかな」のところでは、物語はほとんど終わって「結」に入っている。元のペースに戻っていくので、二木はしっかり正面を見て、少しメタ的に演技するとよい。

・関西弁を意識

「わたしおなかペコペコだし」は「ペこペこやし」の方が、三重っぽい。こういうところ何か所があるんでしっかり意識できるとよい。

・ラスト慌てなくてすむように

地区大会の時には「巻き」が入ってしまった。今回は、通し稽古を何回か稲垣さんにしてもらう中で、絶対に「巻き」がよっぽどのときにしか入らないようにし、ここをしっかりと演技したい。

・「結」の最後、情緒を込めて言う。

「ぜんぜん負けてへんように思えるんさ。神様にささげるっていう…」のところから先、急ぎすぎたのが残念。時間がきちんとあれば、しっかりという。

・うん、で劇の終わり

確認すると。由比の「うん」でストップモーション。

同時に神楽の音楽が鳴りだして、1小節音楽が鳴った後に照明が情緒をもって暗くなっていく。同様にスライドも暗くなっていったら終わり。

最後に「明るくなって二人の礼」があるかどうかは、主催の三重県高校演劇連盟次第なので、打ち合わせの時に聞いておく。とにかく暗転したら音楽もフェードアウトして終わり。

